

☆ねこの健康

◎食餌


【 キャットフード 】

ねこの成長や年齢にあったフードを与えてください。

たくさんのキャットフードメーカーがありますが、ねこの便の状態を確認するなどして、そのねこの体質にあったフードを与えてください。

【 人間の食べ物 】

人間用に味付けされた食べ物は、ねこには塩分、糖分、油分などが多すぎて体によくありません。次の食べ物はねこには与えないでください。

いわゆる、ねこ飯 (まんま)	ご飯に味噌汁をかけたもの	栄養不足で塩分過多。昔のねこは外でネズミや鳥を捕って食べていたから、バランスが補われていただけ。
消化の悪いもの	生の豚肉、イカやタコ	消化不良や嘔吐の原因となることがある
玉ねぎなどのネギ類	ハンバーグ、コロッケ、シューマイなどの加工品も	玉ねぎ中毒を起こして、貧血状態になるねこもいる
鶏の骨、鯛などの硬い骨	 骨付きチキン、煮魚の残り物	鶏の骨はかみ砕いた時に先が鋭く割れて裂け、胃腸に刺さることがある。硬い魚の骨も同様
甘いもの	ケーキ、チョコレート、和菓子など	糖質や脂肪が多く、肥満や糖尿病の原因となる
加工品	ハム、ソーセージ、かまぼこなど	人間用の味付けにしてあるため、塩分の摂り過ぎにつながる

【 食事の回数 】

食事は、一日2回与えてください。子ねこは、1日3～4回にわけて与えます。

食欲がない、元気がないなどの症状がある場合は、病気が深刻な状態になっている疑いがありますので、早めに動物病院に相談してください。

生き物ですから食欲にむらがあることがあります。食べないからといって、トッピングをしたり、人間の食べ物を与えたりしないでください。また、置き餌は衛生上もしつけの上からも好ましくありません。

◎散歩

「ねこが散歩??」と、意外に思うかもしれませんが。しかし、屋内飼育だけでなく外の世界に触れてみようという場合には、リードをつけて散歩をすることでねこの安全を確保することができます。小さいときからリードに慣らしておくことが必要です。

◎お手入れ

ねこは自分で毛繕いをおこない、きれい好きな動物として知られています。しかし、毛繕いだけ

では、十分とはいえません。ブラッシングによって皮膚の血行がよくなり、毛づやも出てきます。また、ケガや外部寄生虫（ノミ・ダニなど）も早期に発見できます。体にふれられることに慣らしておけば、病院に受診したときもスムーズに診察できます。

◎病気のことなど

【 日頃の観察 】

ねこに限らず動物は、どこが痛いと言うことができません。飼い主さんが毎日良く観察して、早く異常を見つけることが大切です。

体の状態、行動、元気、しぐさなど、見た目や動きに異常はありませんか。食欲や食べる量、飲む水の量は。異常な抜け毛やフケなどは。フンやおしこの状態や回数、量は。

異常を見つけたら、動物病院（獣医師）に相談しましょう。

【 検便 】

必要な場合は、便を少量持って動物病院で検便を受けてください。

体内に寄生虫がいると、ワクチンを注射しても効果があがらないことがあります。

【 感染症予防注射 】

ねこの感染症の予防注射（4種混合、7種混合など）は義務ではありませんが、ねこを健康に飼育するために必要です。時期など獣医さんと相談してください。

○ワクチンで防げる病気

予防できる病気	3種混合	猫白血病	4種混合	5種混合	7種混合
◎猫ウイルス性鼻気管炎	●		●	●	●
◎猫カリシウイルス感染症	●		●	●	●
◎猫汎白血球減少症	●		●	●	●
○猫白血病ウイルス感染症		●	●	●	●
○クラミジア感染症				●	●

【 不妊・去勢手術 】

不妊・去勢手術することで、デメリットはほとんど無いと言われています。むしろ逆に、メスでは乳腺腫瘍や子宮蓄膿症など、オスでは前立腺の疾病等を予防することができます。

【 ノミ 】

ねこノミは、ねこや犬の被毛の中に住みついて、動物たちの血液を栄養にして繁殖します。ノミに刺されると痒いだけでなく、アレルギー性の皮膚炎をおこしたり、たくさん寄生すると吸血による貧血がみられたり、他の寄生虫を媒介したりします。人を刺すこともありますが、通常人に住みつくことはありません。